



# さつき沼ビオトープ

## 里山ゾーン

# カブトムシベッド

Beetle bed 甲虫床 딱정벌레 침대

**カ** ブト虫が産卵し幼虫が成長するためのカブトムシベッドを作りました。カブトムシは、広葉樹の葉などが堆積した腐葉土に20~30個の卵を産みます。卵は10日ぐらいで孵化し幼虫になり、秋のうちに2回脱皮して三齢幼虫として越冬します。春になるともりもり腐葉土を食べて大きく成長します。この頃たくさんたべた幼虫が大きな成虫になることができます。

**5** 月頃、土の中に蛹室（ようしつ）という部屋を作り、その中で1週間ぐらいかけて3回目の脱皮を行い、サナギの姿に変わります。7月に4回目の脱皮をしてようやく成虫として地表に出ます。

**里** 山には薪や炭、あるいは椎茸の原木に適したコナラやミズナラなど、いわゆるドングリの木がよく植えられました。カブトムシ虫の成虫はこれらの樹木の樹液を吸って生き、幼虫は朽ちた倒木などを食べながら成長します。幼虫のフンは、ほかの微生物などによって、最終的には水と炭酸ガスと無機塩類にまで分解され、ふたたび植物の栄養となっていきます。カブトムシはミミズなどと同じ、里山の森の分解者なのです。

さつき沼ビオトープ連絡協議会・六戸高校・六戸町